



11月になりました ～出会いを大切に～

11月、霜月を迎えました。朝夕の空気の冷たさが秋の深まりを感じさせます。木々の葉も色づき、落ち葉の散り敷く季節となりました。過ごしやすい季節は駆け足で過ぎていきそうです。

今回は「出会いの大切さ」について少し考えたいと思います。

今月は、3年生は修学旅行、2年生は校外学習があります。修学旅行では、2年生の時に行けなかった神戸の人と防災未来センターに行きます。4日には、事前学習として防災についての講話を聞きます。そこで出会った方々から学ぶところはしっかり学び、思い出に残る有意義なものにしてほしいです。体調面はくれぐれも気を付けてください。

2年生はSDGsについての学習を行っています。10月26日には、班別で田尻町役場の各課の方々にお会いして聞き取り学習を行いました。

各学年でそれぞれ「いい出会い」がありました。感謝いたします。どうもありがとうございました。

さて、話は変わりますが、先週、新しい車が家に来ました。納車された車を見ると、私の古くて小さい車とはぜんぜん違って、ピカピカの車体です。何より、走りやすさや事故防止のための様々な機能には驚きました。



最近、テレビでも自動運転車のコマーシャルもしていますが、近年の技術進歩の速さには目を見張るものがあります。とりわけ、人工知能(AI)は私たちの生活、社会、経済に大きな影響を及ぼします。

例えば、私たちの身の回りでもスーパーや衣料品店での無人レジ、ロボット掃除機、「〇〇(製品名)、●●して。」というAIスピーカーなどがあり、みなさんにもなじみがあると思います。

AIを使ったものなどの発展によって今後10年から20年で約半分の仕事がAIに取って代わられるともいわれています。また、今回の感染症の拡大を受けて、私たちの生活も今までとまったく違う様式に変える必要性に迫られています。

このような中で、これから大人になる皆さんは、自分で何が正しいか判

断し、自分で答えを出さなくてはならないことがたくさん出てくるでしょう。自分で考え、自分で判断し、自分で決定し、自分から行動していくことができる。そして、自分のまわりにいる人の違いを認め、自分も含めてすべての人を大切にする。そんな素敵な大人になってもらいたい、そう思っています。

この内容、どこかで聞いたことはありませんか？

そうです!!田尻中学校の校訓「自立・友愛」のことです。皆さんに、「どんな大人になってほしいか」を考えていたら、やっぱりここに行き着きました。

そのために、改めて考えてほしいこと。それは、「出会いを大切にする。」ということです。



良い出会いはその人の生き方の手本となり、引っ込み思案な自分を変えること、自分の力を驚くほど高めることにつながります。また、相手にとっても、皆さんが良い出会いだと思ってもらえることだってあります。修学旅行や校外学習、1年生は来年のスキー実習で、校外の方との出会いがあり、かかわりの中で必ず何かを得るはずですよ。

何より、自分が日々生活する中で、「新たな価値観との出会い」や、努力して成長していく「新しい自分との出会い」も大切にしてください。「自立・友愛」を実現するために、「出会いを大切に」を胸に今月も頑張りましょう。



各学年の取組み

【1年生】

1年生では、1学期から、総合的な学習の時間に「障がい者理解学習」に取り組んでいます。

自分と他人との違いを知り、他者の立場に立つことの大切さを学習します。また世の中には、さまざまなハンディキャップを抱え、それと向き合いながら暮らしている方がいます。

まずは、さまざまな障がいの種類について、「手話」「盲導犬」「障がい者スポーツ」など、6つのテーマに分かれて、本を用いた調べ学習をスタートします。そして各班が調べた内容について、生徒自身が15分間で授業を実施し、学習内容を共有します。

例年であれば、長期休暇等を活用して、実際に車いすで町内のフィールドワークに出たり、障害と向き合う方を講師としてお招きして、お話を伺ったりしますが、今年度は限られた時間と制約の中でできる限り子どもたちが吸収し、それを他者に伝える力を育みたいと考えています。



【2年生】

1年時の障がい者理解学習・国際理解学習から「ちがひ」という視点を身につけ、来年の平和学習につなぐ学習として、2年生では1学期から「SDGs(イデオロジー)」を軸に学習しています。これは、「持続可能な開発目標」と訳され、国際連合が世界のあらゆる課題に対して17の目標を掲げ、10年後の達成を目指す取り組みです。

「1. 貧困をなくそう」「2. 飢餓をゼロに」「3. すべての人に健康と福祉を」…などの目標について、2年生の教員が授業を担当し全9時間をかけて全目標を学習しました。

10/23(金)には16の班に分かれて、田尻町役場の各課を訪問し、また、中学校には、生活環境課、企画人権課、産業振興課の3課の5名の方々にお越しいただきました。各課の代表の方にお越しいただいて、SDGsの達成に向けた具体的取り組みについて聞き取りを行いました。聞き取り学習を終えて校長室に戻られた皆さんは、いろいろ質問をしてくれてしゃべりやすかったなどにこやかに話してくださいました。役場の方からも中学生の熱心な姿勢に心を熱くされていたそうです。



【3年生】

3年生は、日々、進路実現に向けて学習に励んでいます。どの授業も内容が高度難しく、合わせて1・2年生の復習も並行して進める必要があります。3年生の内容は習ったその日にできるだけ修得することが大切です。

また、11/8(日)からの修学旅行に向け、防災学習にも取り組んでいます。11/4(水)は日本赤十字の方を招いて聞き取り学習をします。卒業を半年後に控え、それまでに着実に身につけたいのは「困難に直面した時も前向きに生きぬく知恵」です。毎年、激化する風水害。いつか必ず訪れる地震・津波被害。それに正面から向き合い、しっかり備えるための学習をします。



11月の予定

2(月)	3年生 第3回学力診断テスト
4(水)	45分授業、給食後下校(1-Aのみ5限後下校)
5(木)	歯科検診
6(金)	3年生 修学旅行前日指導
8(日)	3年生 修学旅行～9日(月)
10(火)	3年生 代休
11(水)	生徒会後期任命式・退任式
12(木)	モアレ検査二次(9:00～)
13(金)	検尿二次、3年生進路用写真撮影(6,7時間目)
16(月)	全校集会(6限)
17(火)	2年生 校外学習(万博公園周辺)
25(水)	3年生進路懇談会～27日(金)
26(木)	検尿2次もれ

大仏建立に込められた願いとは？

先日の読売新聞(10月17日(土)～19(月)朝刊)に、正倉院展の開催に合わせ、奈良の大仏を造立した経緯について掲載されていました。今回は、この記事にふれて考えたいと思います。

奈良時代の735年、「天然痘(てんねんとう)」という感染症が流行しました。痘瘡(とうそう)ウイルスが病原体で、高熱を発して寒気や頭痛・腰痛を伴う病気です。感染性が強く、死亡率も高いのが特徴です。現在もインフルエンザと同様に、法定伝染病に指定されていますが、予防が可能で1980年にWHO(世界保健機関)から「絶滅宣言」が出されています。

しかし当時は、原因も治療法も不明で、次々に感染が拡大し、多くの方が亡くなりました。米ハワイ大学 ウィリアム・ファリス名誉教授(歴史人口学・1985年発表)は、人口の25%～35%が亡くなったと推計しています。当時の日本の人口は約450万人とされ、100万～150万人が亡くなったというわけです。(ちなみに新型コロナウイルス感染症による死者は、10月末現在1700人超。)都では、有力な貴族の多くが感染し、701年の大宝律令の制定にかかわった、藤原不比等の4人の息子も相次いで亡くなっています。

拡大する伝染病に対し、聖武天皇は「私の不徳によるもの」と自らを責めます。米の支給や税の減免など、現在でも行われている対策を施しますが、なかなか事態は収束しません。

そこで743年、聖武天皇は都に大仏をつくる命令を出します。仏教の力でこの混乱を鎮めようとしたのです。

憲法で信教の自由が保障されている現代では考えられないことですが、現在もお堂々とした姿をとどめる大仏を見れば、当時の「意気込み」が感じられるのではないのでしょうか。

聖武天皇は、国民に対し「一枝の草、一握りの土でも持ち寄って造立に協力したいという人がいれば、ともに(大仏を)造ろう」と呼びかけます(平安時代の歴史書『続日本紀(しょくにほんぎ)』より)。文字通り、「仏にすがる思い」で、大仏の制作を通して、国民を一つにまとめ、結束して困難に立ち向かおうとしたのです。

この国家プロジェクトを、民衆が納得したうえで進めなければ、絶対に成功しません。そこで、その指揮を命じられたのが、当時、生活に苦しむ民衆の救済活動をしていた僧・行基です。日ごろの活動から行基は中国から大きな風呂釜を取り寄せ、一日の重労働後に入浴する場所を提供したといいます。毎日、入浴によって一日の疲れを癒すという、今では当たり前となっている習慣がなかった当時の人々にとっては、「画期的なアフターサービス」だったのです。



また、聖武天皇の妻・光明皇后は、「施薬院(せやくいん)」という役所を建て、病人に薬を提供しました。危機に直面した聖武天皇夫妻が国民に伝えたかったのは、危機に直面した時こそ、お互いに心を配り、皆が一致団結して困難に立ち向かうことが大切だと、言うことです。

コロナ禍の混乱の中、東大寺では毎日、正午の祈りを実施し、加えて11月6日(金)からは夜間特別参拝が行われ、感染の終息を祈るそうです。そして、今年も「正倉院展」が開催されています。大仏建立を命じた聖武天皇の数ある宝物の中から、毎年、選りすぐりの逸品が展示され、多くの歴史ファンが魅了されます。数百年の時を超えて、改めて歴史が伝える人間生活の原理・原則。人が生きるうえで大切なことは、時代が変わっても揺るがないものがあります。

(参考資料 読売新聞 10/17(土)～19(月)～苦難を越えて 宝物の原点～)

こども支援コーディネーター 横井武志